

(株)サーバント(障害福祉(放課後等デイサービス他)・可児市)

「短時間勤務でもフルタイム勤務と同一賃金」とするなど職員が働きやすい環境整備で、職員定着とサービス向上を両立

- ・ 短時間勤務でもフルタイム勤務時と同一賃金を保障し、フレックスタイムやリモートワークにも柔軟に対応
- ・ 職員教育を充実させ、資格取得支援や多能工化を進めたことで、急な休みにも対応できる体制を確保
- ・ 利用者へのサービス提供に注力できるよう、対応記録や稟議（文書回覧による意思決定）のデジタル化、生成A I 活用などI C T（情報通信技術）の導入で業務を効率化



可児市を中心に県内6市町で児童発達支援等の施設を展開する（株）サーバント

可児市を中心に県内6市町で放課後等デイサービスなどを運営し、児童の発達支援等に関する様々な施設を展開している（株）サーバント。

支援する職員が頻繁に変わると、利用する児童が安心して過ごせないとの思いで、平成25年の設立当初から、職員が安定的に定着することを第一に考え、安心して働ける環境を目指して3つの取組を進めてきました。

「短時間勤務でもフルタイム勤務と同一賃金」を保障

まず1つ目が「短時間勤務でもフルタイム勤務と同一賃金」です。小学3年生までの子を持つ職員や不妊治療、介護などの事情を有する職員について、最大2時間短縮した短時間勤務でもフルタイム勤務と同一賃金を保障しました。

「子育てや介護中の職員は勤務中も生産性を上げるため最大限努力しています。勤務時間が短くなったといっても、限られた時間の中、一生懸命仕事をして成果を上げてくれるので、同一賃金を保障することにより、経済的な不安を解消してあげる必要があると考えました」と^{くらずみ りょうすけ}蔵澄綾介専務はこの取組についてのねらいを話します。

現在は、職員の約1割が短時間勤務の制度を活用。併せて、持病を抱える職員についてはフレックスタイムを認めており、リモートワークも活用しながら、自分の体調に合わせてフルタイムで働けるようにするなど、職員の事情に寄り添った柔軟な対応を取っています。



職員の約1割は短時間勤務

職員教育の充実と多能工化の推進によりサポートしあえる体制を確保

2つ目が「職員教育の充実」です。同社は中堅層の育成など、職員教育に力を入れることにより、働きやすい環境を整備しています。



職員間でサポートしあえる体制を整備

例えば、児童福祉法で設置が義務付けられているサービス管理責任者などの資格取得を積極的に支援していくとともに、自分の主担当以外の業務についても覚えてもらうことで、職員スキルの多能工化を進め、子どもの体調不良等、急な休みを取っても、施設間で融通し、サポートしあえる体制を職員教育の充実により整備しました。

ICTの活用で業務を効率化

3つ目が、「ICTの活用」です。限られた時間で支援サービスに充てる時間を増やすため、対応記録や日報のデジタル化、社内稟議のペーパーレス化、生成AIによる会議議事録の作成など、業務にICTを積極的に取り入れ、短時間で効率よく業務を行えるよう、DXを図っています。

短時間のパート勤務の方を活用し、効率的に人員を配置

また、放課後等デイサービスでは、サービス提供時間である14時から17時15分までの時間帯に業務が集中するため、こうした繁忙の時間帯には、子育て中の方や高齢者など、短時間のパート勤務を希望される方を積極的に活用し、効率的な人員配置を行っています。

働きやすい環境整備が、職員定着に加え利用者へのサービス向上につながる

こうした取組により、職員の定着が進み、子育てや介護などを理由とした離職が皆無となったほか、働きやすさに惹かれて就職希望者が増え、毎年安定して職員を採用できています。

「職員がより安心して働ける環境を整えることにより、職員の心身が充実し、利用者へのより良い支援につながる」と話す蔵澄専務。

職員が働きやすい環境整備が、施設利用者へのサービス向上にもつながっています。

【従業員の声】

育休後、時短で働いています。子どもの急病時には看護休暇で対応できるほか、他職員の協力もあり、行事等の休みにも柔軟に対応いただいております。働きやすい環境になっています。また、物価高騰の中、給与面では時短前と同額を支給していただけることで家計も助かっています。

【（株）サーバント】 (<https://www.nijinohashi.co.jp/>)

所在地：可児市川合2793-24

従業員：147名（うち正社員95名、パート52名）

設 立：平成25年

（令和8年1月末時点）